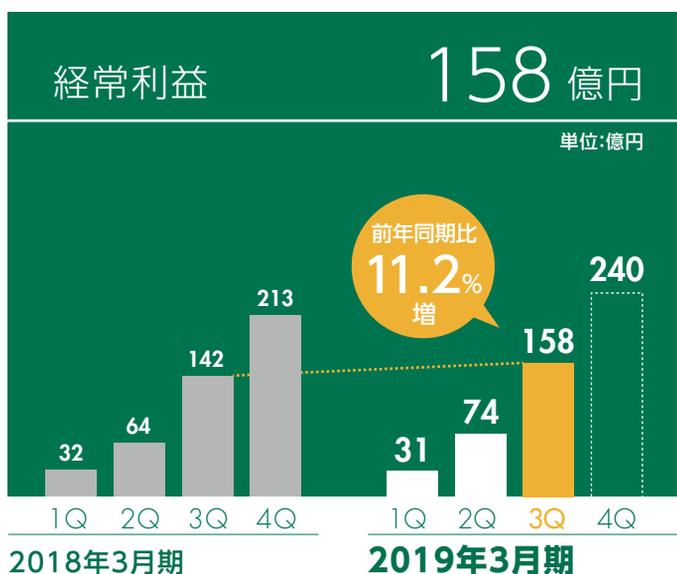
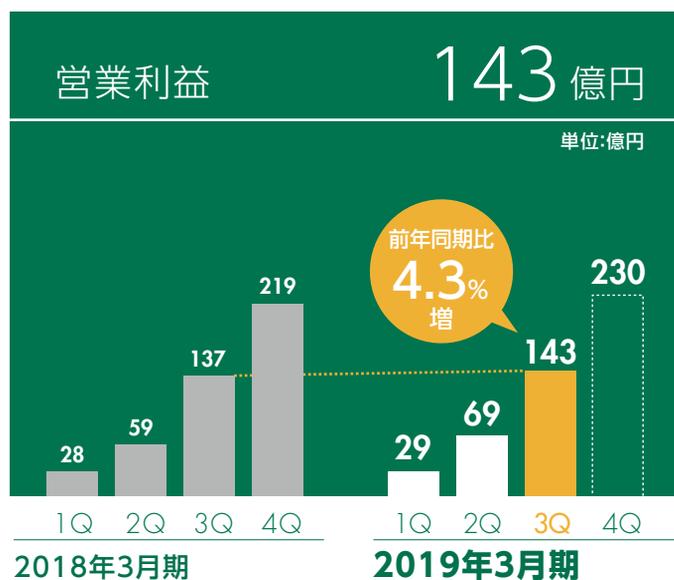
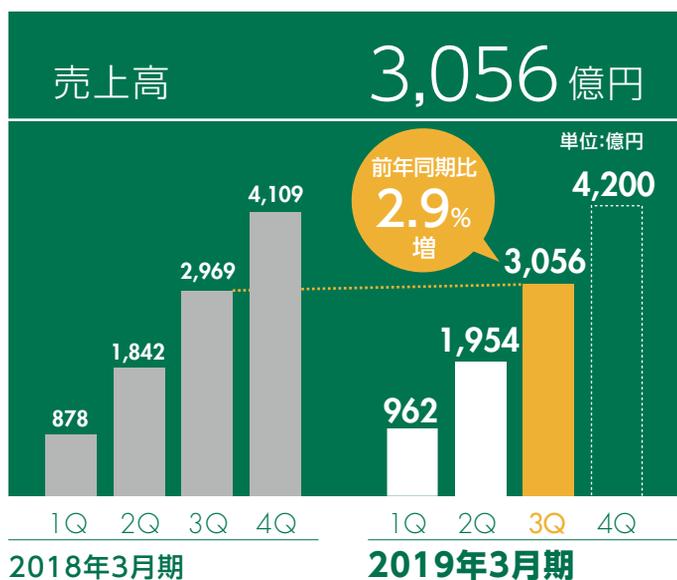


# 第15期 第3四半期決算ご報告

2018年4月1日から  
12月31日まで

株主のみなさまへ

## 連結業績ハイライト



# TOP MESSAGE トップメッセージ

**当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比2.9%増、営業利益も4.3%増となりました。**

平素より格別のご高配、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ここに第15期第3四半期(2018年4月1日から2018年12月31日まで)の業績や取り組みについて、ご報告申し上げます。

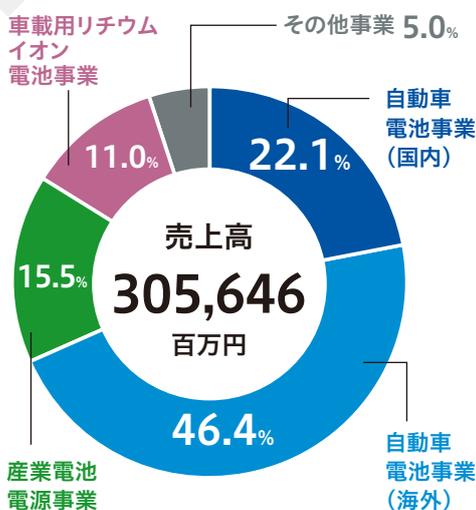
当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益および雇用環境の改善を背景に、個人消費の持ち直しが見られる等、景気は緩やかに回復しました。

世界経済に目を転じますと、中国においては、米国との貿易摩擦を背景に景気は減速傾向にあります。一方、米国は雇用および所得環境が良好であり個人消費の拡大が持続しました。欧州においても雇用環境の改善を背景に個人消費は底堅く推移しました。しかしながら、米中貿易摩擦のさらなる激化や長期化による景気下押しリスクが懸念されるなど、世界経済の先行きは不透明な状況にあります。

このような経済状況の中、当社グループでは、主として自動車電池事業において鉛価格の上昇分の売価転嫁が進んだことや国内の補修用需要が堅調に推移したことに加え、車載用リチウムイオン電池の販売が増加したことなどにより、当第3四半期連結累計期間の売上高は、3,056億46百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて86億61百万円増加(2.9%)し、営業利益は143億15百万円(のれん等償却前営業利益は161億62百万円)と前第3四半期連結累計期間に比べて5億94百万円増加(4.3%)しました。上記の営業利益の増加に加え、持分法投資利益の改善により経常利益は、158億円と前第3四半期連結累計期間に比べて15億89百万円増加(11.2%)しました。これに加え親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益に固定資産売却益を計上したことにより、100億90百万円(のれん等償却前親会社株主に帰属する四半期純利益は119億70百万円)と前第3四半期連結累計期間に比べて38億72百万円増加(62.3%)しました。

取締役社長 村尾 修

## セグメント別業績の報告(連結)



### 自動車電池事業(国内)



**売上高** 補修用需要が堅調に推移したことにより増加。

**セグメント損益** 販売増加の影響に加え、鉛価格の上昇分の売価転嫁が進んだことにより増加。

### 自動車電池事業(海外)



**売上高** 主として中国や東南アジアでの販売が減少したものの、鉛価格の上昇分の売価転嫁が進んだことにより増加。

**セグメント損益** 売上高と同様の理由により増加。

### 産業電池電源事業



**売上高** フォークリフト用電池の販売が好調に推移したものの、電源装置の販売減少や一部事業譲渡の影響などにより減少。

**セグメント損益** 売上高と同様の理由により減少。

### 車載用リチウムイオン電池事業



**売上高** ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が減少したものの、プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が増加したことにより増加。

**セグメント損益** 原材料価格の上昇の影響に加えて開発費用の負担増加などにより減少。

### その他事業



**売上高** 潜水艦搭載リチウムイオン電池の生産増加により増加。

**セグメント損益** 研究開発費用の増加などにより減少。

### 北海道に新設される 世界最大規模の蓄電池設備に GSユアサの製品が採用されました。

風の力を利用して、風車を回し、その動力で発電する風力発電。地形が平坦で、年間を通して一定風速の風が得られる北海道は、風力発電に適した土地とされています。しかし一方で、送電網が脆弱なため、これまでこの風資源を有効に活用できていませんでした。

今回、「風力発電のための送電網整備の実証事業」において、北海道天塩郡豊富町に変電所が建設されることが決まり、当社はそのうち世界最大規模の大容量蓄電池設備の設置工事を請け負うこととなりました。車載用、産業用など幅広い分野での量産実績に裏付けられた技術力や信頼性、優れた安全性、長期間のサポート力が評価され、当社のリチウムイオン電池設備が採用されました。

### 風力発電などの再生可能 エネルギーの普及に欠かせない 出力変動緩和に貢献します。

私たちが使用する電気の需要は季節や時間などによって変動します。電力会社はこの需要の変動に合わせて発電し、需要と供給のバランスを維持しています。しかし、風力発電や太陽光発電といった再生可能エネルギーは、天候や時間帯によって発電量が大きく変動(出力変動)することから、電力系統に悪影響を及ぼすことがあります。

この出力変動を緩和するのが当社の蓄電池です。蓄電池は、風力発電設備の短周期および長周期での出力変動に対して充放電を繰り返し、電力系統の安定化に貢献します。当社は今後も、蓄電池の技術を高め、サポート力を強化することで、再生可能エネルギーの普及を支えていきます。

#### 電気自動車4.5万台に相当する蓄電池容量



**北豊富変電所**

- 北海道天塩郡豊富町
- 2023年稼働開始予定
- 世界最大規模の蓄電池設備  
【出力】24万キロワット  
【容量】72万キロワット時

#### 安定的な電力供給を可能にする蓄電池



グローバル社会が抱える課題を解決するため、国連は2015年9月に持続可能な開発目標(SDGs)を採択しました。飢餓や貧困、気候変動など、世界規模の課題解決を図るために設定された目標を達成するために、すべての国々がSDGs達成に取り組むことが求められています。

本プロジェクトは再生可能エネルギーの有効活用のため、出力変動を安定化させる蓄電池システムの導入を通じて、SDGsに貢献するものです。



# TOPICS

## 「ECO.R EN」シリーズにアイドリングストップ車用型式を追加ラインアップ

### 日本の風土に合致した欧州規格のバッテリーの開発と補修市場向け「ECO.R EN」シリーズの投入

近年、新車メーカーのグローバル調達が進むなか、国内でも欧州(EN\*)規格のバッテリーを搭載する車が増えています。

欧州の寒冷な気候に合わせたEN規格では、鉛蓄電池に求められる性能も、「低温時の始動性能を示す尺度」の優劣が重視される傾向にあります。そこで、当社は2016年に日本の気候風土に適応し、かつJISの安全性にも合致した日本仕様様のEN規格のバッテリーを開発。新車メーカーへの供給を進めてきました。また同年に、補修市場向けに「ECO.R EN」シリーズを投入。

2017年には、今後の取り替え需要の増加を見据えて、ハイブリッド車の補機用だけでなく、エンジン始動用にも対応するとともに、ラインアップを拡充してきました。

※ ENは、European Normの略称。

### EN規格のバッテリーを搭載したアイドリングストップ車の増加に対応

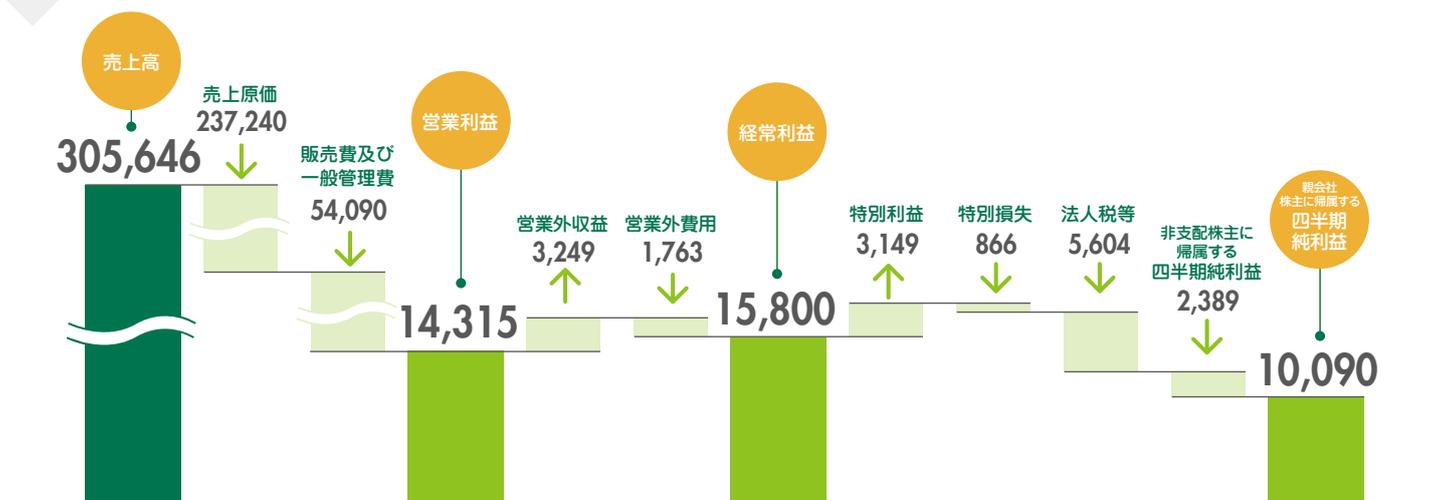
現在、新車メーカーのアイドリングストップ(以下、ISS)車に、EN規格のバッテリーの搭載が進んでおり、当社製品の採用も拡大しています。そのため、将来におけるEN規格のバッテリーを搭載したISS車の保有台数の増加と、それに伴う取り替え需要の増加を見据え、2018年11月、

「ECO.R EN」シリーズに、ISS車に対応する3型式を追加ラインアップしました。今回追加した型式はいずれも通常車、ハイブリッド車(補機用)に対応できる兼用タイプです。

当社は、今後も時代によって移り変わる自動車用バッテリーへの期待や要望に、高い技術力で応えていきます。



## 連結損益計算書(百万円) 当 第3四半期(累計)(2018年4月1日~2018年12月31日)

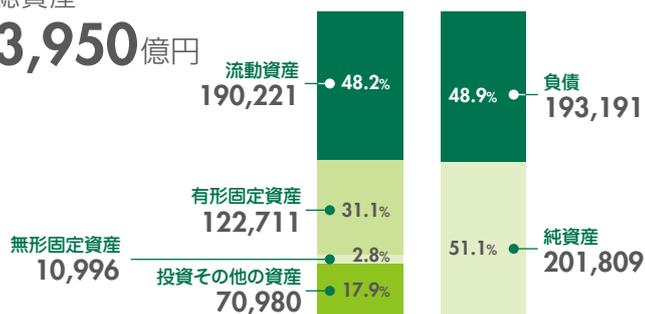


## 連結貸借対照表(百万円)

当 第3四半期末(2018年12月31日)

総資産

3,950億円



## 会社概要(2018年12月31日現在)

|           |   |
|-----------|---|
| 商号        | 株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション<br>GS Yuasa Corporation                        |
| 事業目的      | 電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。                  |
| 設立        | 平成16年4月1日   |
| 資本金       | 33,021百万円   |
| 本社所在地     | 京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地   |
| 電話        | (075)312-1211   |
| ホームページ    | <a href="https://www.gs-yuasa.com/jp">https://www.gs-yuasa.com/jp</a> |
| 上場金融商品取引所 | 東京証券取引所市場 第1部   |

IRサイトで情報を発信しています。 <https://www.gs-yuasa.com/jp/ir>

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

UD FONT